

終了事業 **東ティモール**

農業用水改善事業

— 地球にも女性にもやさしい点滴灌漑を使って、貧困削減と女性のエンパワメントを目指す —



活動地域: エルメラ県アッサベ郡の4村内12集落
 事業期間: 2020年3月31日～2024年2月13日(うち、2020年3月31日～同年10月31日の約7か月間と2021年1月1日～同年2月13日の約1か月半は新型コロナウイルス感染拡大に伴い活動休止)
 事業規模: 当年度支出額32,932千円(総事業規模: 約134,104千円)
 主な支援者: 外務省、支援組織、企業、個人

12 グループ

農民グループ(集落)の数

233人

3年次における農民グループメンバーの数

18 種類

多様化された野菜の種類



© Sarah Wiles/CARE

課題

活動地のエルメラ県アッサベ郡では、多くの人々が零細農業を営んでいますが、農業生産性は低く、生業状況は脆弱なため、貧困度の高い地域となっています。背景には、気候変動に伴う天候不順等、様々な要因がありますが、乾期の水不足も農業を妨げる大きな要因です。雨期の天水に頼った穀物の生産だけでなく、農業を多様化し、年間を通じ作物が収穫できる環境への改善が求められています。そのためには、農業用水設備の整備を進め、乾期の水不足を解決することが重要です。また、膨大な労力を必要とする水汲みと農作物への水やりは女性農民が主に担っています。貯水タンクや点滴灌漑設備などを設置することで、安定的な農作物の収穫が期待でき、さらに水汲みや水やりにかかる労働から女性農民を解放することが可能となります。

活動内容

2024年2月に本事業が終了。天水頼りの穀物中心の農業から、野菜を取り入れた農業への転換を促進することで、雨期乾期に左右されない農業への転換が図られました。また、農地の特性や市場価値を考慮し、栽培する野菜の種類を18種類にまで多様化することができました。さらに、点滴灌漑設備の設置により、女性農民に負担が偏りがちな水汲みや水やり労働に費やす時間はゼロに。研修などを通じて、女性農民のリーダーシップ醸成や男女の役割分担の見直しも図られ、女性たちが自ら意見を表明し、より主体的に農業に関わるという変化が生まれました。加えて、この事業では、通年で安定して野菜栽培ができることまでをその事業範囲とし、収入向上までは含めていませんでしたが、余剰野菜を学校給食用とし、また地元の市場で販売する農民グループが出現しました。課題としては、事業期間を通して、活動に対する参加度合いや積極性の差異が生じたため、3年次では、農民グループのメンバーの再編を大々的に行い、積極的に参加したメンバーが野菜栽培を通して得られる利益を実感できるような利益分配の仕組みを作りました。

受益者の声



ジョアナナさん

農民グループのリーダーを務めるジョアナナさんは、「今では私たちは地元の市場で農産物を販売しています。農具が壊れたときには、共同で新しいものを購入するための資金を集めることができます。場合によっては、自分たちで設備などを修理する方法も知っています。私は、今、グループ農地の設備がちゃんと機能しているかどうかを定期的に点検することに、全力で取り組んでいます」といいます。続けて、「この事業は、ジェンダー平等ワークショップや、パブリックスピーキング研修などを通して、私のような女性がリーダーになるための扉を開いてくれました。以前は、女性が人前で話す自信も機会もなく、ましてや農民グループを率いるなんて考えもしませんでした」と、力を込めて語ってくれました。